
信仰概念

雨宮千歳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
信仰概念

【コード】
N1846J

【作者名】
雨宮千歳

【あらすじ】
宗教にのめりこむ母親と、子どものこと。

(汚れているのは果たして、僕か、母親か。)

ママは、ぼくの小さな頭を掴んで、水の中にしずめた。

水は、思った以上に冷たく、思った以上に汚く、垢も、髪の毛も、埃も(たぶん、ぼくのよだれもなみだも)浮いていた。

ママは、ぼくに何か言っている。

ぼくが、くるしい、と言っても、ママはぼくの頭から手を放さない。口から入ってくる冷たい水に、ぼくのノドは悲鳴をあげる。冷たい水が管をすり抜けていく、その感触に、ぼくの体にぶつぶつが立ち、警戒する猫のように、ぼくのいたる所の産毛が、逆立った。

ぼくの体内に汚れた水が入ると、ぼくの体内から液体が出ていった。目から、鼻から、口から、ペニスから。

ああ、汚い。汚い、汚い、ぼく、汚いよ、ぼくのからだ、いっぱい汚れていくよ。ママ。ぼくのこと、汚いから、きれいなもの？

ぼくが小さな手を伸ばしたとき、ママのきれいな手がぼくの頭から放れた。

「きたないでしょう」

ママから放たれた言葉に、ぼくは、ぼくが、きたないことを知った。ママのうつくしい顔と、きれいな手は、もっと、ぼくをみじめにさせた。

「けがれた天使なんて、ママはいらないの」

ぼくは、そっと口を開けた。

何を言うでもなく、そっと、ほんの少しだけ、口に空気を送った。

ねえ、ママ。ぼく、てんしなんかじゃないよ。
でも、ママがのぞむのなら、ぼくは、てんしにだってあくまにだ
って、なあってあげる。

ママは、笑っている。とても、幸せそうに。だから、ぼくも笑っ
てあげた。

目から、冷たい水が落ちたけれど。

「信仰概念」

2009・1229・0027・azami

(後書き)

長編を書くに当たっての断片のような、超短編です。

何かあればお気軽にちょいっとコメントいただければ嬉しいです*

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1846j/>

信仰概念

2011年1月19日11時53分発行